

成田市教育委員会会議事録

平成30年6月成田市教育委員会会議定例会

期 日 平成30年6月27日 開会：午後3時30分 閉会：午後4時56分

会 場 成田市役所6階 中会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗

出席職員

教育部長	宮 崎 由紀男
教育部参事	神 山 金 男
教育総務課長	清 水 活 次
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	高 梨 哲 生
教育指導課長	高 安 輝 司
生涯学習課長	神 崎 良 浩
学校給食センター所長	椿 弘 志
公民館長	谷 平 裕 美
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	田 中 美 季
教育総務課長補佐 (書記)	篠 塚 康 孝

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 高木久美子委員、佐藤勲委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○5月24日～5月28日 学校長目標申告・教育長面談について

学校の校長と面談し、本年度の目標申告を受けました。学校間の差は多少あるものの、どの学校でも、第一に掲げるのは、子どもたちの学力の向上。そして、教職員の指導力の向上。様々な環境で育つ子どもに、どの子も同じように学力を身につけさせるのは容易ではありません。各学校で工夫している良い方策は、どの学校でも同様に取り組んでみるとか、学校間の情報共有も大事だと思いました。また、この目標申告は、年度末の人事評価にもつながるものです。それだけに、校長先生方の思いと意欲が、学校経営にどのように表れているか、学校訪問を通じて検証するとともに、結果的に子どもたちにより良い方策を講じられるよう支援してまいりたいと思います。

○6月19日 平成30年度第1回成田市視聴覚ライブラリー運営委員会について

前回、視聴覚ライブラリーの設置及び管理に関する条例及び視聴覚ライブラリー運営規則の廃止について、本委員会に諮問したところですが、この日はその答申をいただくことをメインに協議を行いました。協議の中で、現在行っている事業は今後どうするのかなど、いくつかの質問があり、映画会の上映、教材用DVDやPAシステムの貸し出しなどは、図書館で引き続き行うこと等を説明し、条例等を廃止しても必要な事業は継続して実施するというお答えをしたところでした。その結果、視聴覚ライブラリーの設置における所期の目的は達成されており、その役割を終えたとして、条例等の廃止は適当であるとの答申をいただきました。諮問された方の中には、16ミリフィルムの上映ができなくなることについて、まだ心残りであるような様子も感じられましたし、これまでできていたことが、今後、本当に継続して行ってもらえるのかといった不安を感じていらっしゃる方も見受けられました。こうした方々への配慮を忘れず、条例等の廃止に向けて事業の見直しを図っていかなければならないと感じた次第です。

市議会

○6月1日～6月20日 平成30年6月定例会について

本議会においては、8人の議員さんから一般質問を受けました。内容的には、学校プールについて、中学校部活動の外部指導者について、学校給食について、いじめ対策、不登校児童生徒への支援について、小中学校における心肺蘇生教育について等、既に何度も質問をいただいている内容が多かったのですが、市内における学校や児童生徒の現状を、議会を通じて広く知っていただくという点で良いことだと思っています。実情をどう説明し、理解をいただくかは、言葉を慎重に選んで述べる必要がありますので、それなりに大変ですが、答弁を考えながら、私たちが学ばせていただくという気持ちで今後も誠実に対応したいと思います。

○6月13日 教育民生常任委員会

本議会で教育委員会から提案した議案は、橋賀台小学校の校舎大規模改造工事と本城小学校の校舎増築工事の工事契約案件2件でした。両議案については、常任委員会、議会本会議とも、全会一致で承認、可決されました。

その他

○5月25日 国際こども絵画交流展2018実行委員会について

毎年実施している、この絵画展覧会。昨年は、姉妹都市である台湾の桃園市からの招待を受け、特別賞受賞者が桃園市を訪れています。今年は逆に、この展覧会の授賞式に合わせて、桃園市の子どもたちを招待したいという話もありましたが、未定の様です。単に絵画の展示だけでなく、こうして姉妹都市と子どもたち同士の交流ができれば、まさに「国際こども絵画交流展」になるのではないのでしょうか。渡航費用や滞在費など、予算の準備が必要ではありますが、何とか実現できないものかと思いました。

なお、今年のテーマは、祭り (Festival) となりました。

○5月28日 公益財団法人印旛郡市文化財センター第102回理事会について

印旛郡市文化財センターの昨年度決算の状況と今年度の事業見通しについて、報告がありました。既に、何度かこの席で報告させていただいていますが、一昨年度あたりから徐々に事業実績が回復し始め、今年度は、この印旛郡市文化財センターに各市町から派遣する職員を、本市も含め2名増員し、業務にあたっています。一時は存続が危ぶまれる状況でしたが、回復し

つつあることに安堵しています。しかし、何かの開発がなければ文化財調査が行われない現状では、いずれまた、厳しい時代がやってくるものと思います。今後の維持継続をどう考えていくかは、抜本的な改善策がなく、依然として課題であると感じています。

○5月29日 2018成田POPラン大会第1回実行委員会について

今大会で32回目を迎える成田POPラン大会の第1回実行委員会がありました。昨年の大会では、4,925名の参加申込みがあり、盛会裏に終了することができましたが、何回実施しても、その都度、反省すべき点はあるものです。大会の運営面では、特に大きな変更はないのですが、昨年は、表彰式での表彰選手の扱いについて、もっと丁寧にとという声がありました。表彰選手が多く、次から次へと急いで表彰式を行っていたのですが、選手の立場からすれば、やはり、もっと気持ちを込めて時間的なゆとりをもって行ってほしいということだと思います。こうした点も今年は改善していきたいと思います。

○5月30日 平成30年度千葉県教育庁北総教育事務所 所長等訪問について

中台小（5/30）、前林小・大須賀小（6/18）、向台小（6/19）、
久住小・公津の杜中（6/25）、八生小・加良部小（6/26）

教育事務所の学校訪問には、私だけではなく、それぞれの委員の皆様も訪問されておりますので、ここでは私の感想だけ述べさせていただきます。

教育事務所の先生方は、よく「人材育成」とおっしゃいますが、学校の現状を見て、「これはなかなか難しいな」というのが私の感想です。それぞれの学校には素晴らしい授業をする先生もおられますし、子どもに元気や、やる気を持たせることのできる先生もおられます。一方で、授業参観の間、少しも笑顔を出せない先生や、子どもたちの一人ひとりの学びに目が行き届かない先生もいます。こうした先生たちをどうやって育てていくか、とても学校任せにはできません。そもそも、教員の指導法などは、理屈抜きで、良い手本が身近にあって、それを見て学ぶことができないと、なかなか変わりようがないように思います。もっと言えば、自分がかつて教えられたとおりにしか教えられないのではないかということです。また、学習の姿勢や約束事など、小学校と中学校の連携についても、考えさせられる場面がいくつもありました。本市では中学校区で小中連携を進めるとしていますが、具体的にどんなことをどんなふうに関連させるのか、小中それぞれの先生方がもっと情報共有する必要があると感じました。こうした事柄は、今後、校長会などを通じて徹底していきたいと思います。

○6月3日 第5回成田ラグビーフェスティバルについて

中台運動公園陸上競技場で、ラグビーのトップリーグ、NECグリーンロケッツと神戸製鋼コベルコスティーラーズの試合がありました。これは、成田ラグビーフェスティバル実行委員会が主催して行っているものですが、市も教育委員会も後援しているイベントで、ラグビーの普及促進はもとより、2019年に開催されるラグビーワールドカップのキャンプ地誘致活動の一つでもあるとのことでした。私はこの試合のオープニングセレモニーに出席しただけですが、この日は1日、競技場のほか、競技場周辺でも様々なイベントも行われました。ラグビーファンには大変素晴らしいイベントであったものと思います。

○6月5日 平成30年度第2回成田祇園祭実行委員会について

早いもので、また、成田祇園祭の時期がやってきました。この日は第2回目の実行委員会ということで、私も会に参列いたしました。祭りの期間中、40万人以上もの方々が訪れ、3日間、参道は多くの人で埋め尽くされます。成田の知名度が上がり、その数は年々増しているように感じます。祭りの実行に際しては、華やかな部分と陰で支える部分とがありますが、それぞれに多くの方々のご尽力があって、安全で楽しい行事として成し遂げられるということが、この実行委員会に出て感じさせられます。今年も多くの人々の思い出に残る良い祭りになることを祈念したいと思います。

○6月9日 平成30年度成田市PTAバレーボール大会について

例年実施していた中台体育館の大アリーナが空調工事のため使用できないため、今回は、公津小、橋賀台小、加良部小、新山小の4つの会場に分かれて大会が実施されました。準決勝からは、それぞれの会場で勝ち残ったチームが加良部小に集まり、優勝決定までの試合が行われました。私は公津小の開会式から午前中の試合を観戦しました。最近では、それぞれのチームのレベルが上がってきて、どのチームもよく守り、簡単には点が入らない状況が続く、試合も長引くようになりました。そのためか、午後の決勝が終わった時には夕方6時を回っていたということです。今年は、昨年優勝した神宮寺小が連勝したそうです。去年は、郡大会でも優勝し、県大会に進んでいます。選手の意識が違うというような話も聞きました。今年も是非、県大会に進んでいただきたいと思います。

○6月12日 第2回成田市教頭研修会について

前林小学校で行われた教頭会議に出席しました。6月は議会の開催時期でもあり、校長会議

や教頭会議には、なかなかスケジュールが合わなくて出席できないことが多いのですが、今回の会議は開催時期に恵まれ、教頭先生方にお話しさせていただくことができました。校長先生方とは、個別の面談等もあり、話す機会は結構あるのですが、教頭先生方とはほとんど機会がありませんので、私にとっては貴重な時間となりました。職員と校長の間に入って頑張っておられる方々ですから、それぞれ様々な悩みも持っているでしょうし、学校運営を支えるために努力していることもあるはずです。そうした声を聞くことも大切で、一方的な話ではなく、議論し合いたいと思うのですが、なかなかそれができません。ありきたりの会議だけではない時間がほしいと思いました。

○6月14日 平成30年度千葉県教育庁北総教育事務所 指導室訪問について（三里塚小学校）

三里塚小で本市では本年度最初の指導室訪問が行われましたので、参加してまいりました。三里塚小は2学年だけが3学級、あとは全ての通常学級が2学級、そして特別支援学級が4学級あります。特別支援学級が4学級というのは、市内では最も多い数です。それだけ支援の必要な子が多いというのがこの学校の特徴だと思いますが、どの学級の子も、とても素直な印象を受けました。

○6月16日 平成30年度成田市PTA連絡協議会運営研修会 家庭教育・地域教育力向上講演会について

大栄公民館で開催されました。特に後半部分の地域教育力向上講演会では、吉永みち子先生に「自分らしく生きる」というテーマでご講演をいただきました。皆様ご存知だと思いますが、競馬の吉永騎手の奥様で、「勝馬」など競馬新聞の女性記者として活躍された方でもあり、ノンフィクション作家でもある方です。ご自身の子育ても交えてお話しされましたが、とても現実的で前向きで、元気をもらえたお話でした。

○6月17日 第10回成田女子フェスティバル（ジュニア女子サッカー大会）について

例年、4月の初めに行われていた女子サッカーの大会。今年は、他の行事の都合でこの日になったようです。私は開会式に参加し、挨拶をさせていただいたのですが、今まさにワールドカップが開催されているところであり、タイミング的にはとても良い状況だったかと思いません。女子サッカーのレベルも年々向上し、どのチームも強くなっていますが、サッカー協会からは、「中学校に女子サッカー部がないのが厳しい。市内の学校にも、是非、女子サッカー部を

つくってほしい。」との要望が毎年出されています。しかし、今の状況では、そこまで学校に求めるのは厳しいのではないかなと思います。この日は毎年参加している埼玉県のチームも来ており、その熱心さには驚くばかりです。

○6月18日 山武市教育委員会 行政視察について（下総みどり学園）

学校統合を推進する山武市教育委員会の教育長はじめ、全教育委員さん方が下総みどり学園を訪問し、統合の経過や学校建設の状況などを見て回りましたので、私も前半部分だけ対応させていただきました。子どもの数が減り、複式学級や小規模学校が増えていくと、どうしても学校統合が話題に上ります。しかし、学校統合は簡単ではありません。成田市では平成20年3月に学校適正配置調査報告書を公表して以来、9校の学校を閉校し、新しい学校をつくったり、既存の学校に統合したり、様々な取り組みをいち早く成し遂げてきました。そうした取り組みの中での義務教育学校の設立は、県内外からも注目されるところで、当該校長からは、今学期は、昨年よりも今年の方が視察される回数が多いと伺っています。こうした機会を利用し、学校職員の意識をさらに高め、全国の手本となるような学校運営ができればいいと思います。私たち教育委員会も、できるだけ視察に協力し、成田市の義務教育学校の名を知らしめていけたら幸いです。

○6月21日 「社会を明るくする運動」成田市推進委員会について

毎年実施しているこの運動は、全国的な規模で行われている運動で、本市も千葉県の取り組みを受けて、実施しているものです。主管課は福祉部社会福祉課、中心となって動いてくださるのは成田市保護司会、成田市更生保護女性会、成田市社会福祉協議会等です。7月2日午前7時半から街頭キャンペーン、7月14日に成田市大会を開催するとのことで、この日は、これらのイベントや大会での役割分担等を決めたところです。また、小中学校にも協力をお願いし、「犯罪や非行の無い明るい社会を築くために思うこと」を題材に、原稿用紙3枚から5枚程度の作文を書いてもらいたいとのことでした。内容が内容だけに、小学生では高学年以上が対象になるのかなと思いますが、応募締切が9月7日ということですので、夏休み中の課題として、学年に関わらず、積極的に取り組んでもらえたらと思います。それにしても、この題材で原稿用紙3枚から5枚というのは、結構難しいのではないのでしょうか。本当であれば、大人が子どもに手本を示せば良いことなのに、子どもの教育という視点で捉え、子どもに作文を書かせているのが現状です。

○6月22日 北方町教育委員会 行政視察について（下総みどり学園）

山武市に続いて、岐阜県北方町教育長他2名の視察に対応いたしました。北方町は、岐阜県の中で最も人口密度が高い町だそうです。小学校3校と中学校1校の現状から、小中一貫の義務教育学校2校に編成する計画を立て、5年後を目途に新しい学校の設立を目指しているとのことでした。一つは1,000人規模の学校になることから、東京都品川区の小中一貫校伊藤学園を視察、もう一つは500人規模の学校になることから、下総みどり学園を視察することにしたとのことで、大変熱心に視察していただくことができました。学校統合は、古くから親しんできた学校がなくなるということから、住民の反対があるものですが、義務教育学校にするというと、今度は保護者から、大きな子と一緒に小さな子がいじめられるのではないかという不安が生じ、反対の意見が出るものです。下総地区でもそうでしたが、北方町でも同様の様子でした。そのため、どうやって地域からの合意が得られたのかということに、非常に興味があったようです。下総みどり学園の取り組みは、きっと参考になるものと思います。

○6月23日 成田市文化団体連絡協議会創立40周年記念まつりについて

文団連の創立40周年記念まつりが成田国際文化会館で行われ、この日は、一日中、各文化団体の発表が続きました。私は開会セレモニーと記念式典だけの参加でしたので、ここでは特に詳細なご報告はありません。

○6月26日 平成30年度第1回成田市学校支援地域本部事業運営委員会について

今年度は、13校で実施される学校支援地域本部事業。その地域コーディネーターの方々と運営委員の方々が集まり、第1回目の運営委員会を開きました。この会議では、まだこうした組織を立ち上げることができない学校の課題に、どう対処すればいいのか、既に地域コーディネーターや運営委員を経験されている方々にお話を伺ったところです。無理をせず、できることから始めるのがこの事業のスタートです。特に何か新しいことをやろうとすると、学校職員の負担が増しますが、今やっていることを整理して学校支援地域本部事業とすれば、さほど負担をかけずにできるはず。地域コーディネーターが見つけれないという声も多く聞きますが、身近なところから働きかけをして仲間を増やすような取り組みをし、現在行っている様々な地域ぐるみの取り組みを組織化していってもらえれば良いと考えています。

この事業は、学校評議員制度と共に、いずれはコミュニティースクールに発展させていくべき事業の一つです。本市においても、将来的には、全校をコミュニティースクール化しなければならない状況になると思います。その前に、今できることを着実に一歩ずつ進めていかなければ

ればならないと考えています。

○6月27日 公益財団法人印旛郡市文化財センター第7回定時評議員会について

本日午前中に、印旛郡市文化財センターで評議員会があり、私も副理事長という立場で参加してまいりました。議事内容は、先程ご報告いたしました印旛郡市文化財センター理事会で協議されたものと全く同じ内容ですので、詳細なご報告は省略させていただきたいと思います。

以上、報告とさせていただきます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：学校訪問ですが、時間の許す限り参加させていただきました。中台小では学校全体で特別支援教育に取り組んでいるという説明を受けて、北総教育事務所の酒井所長さんは、ご自身が特別支援教育に関わったことで、いろいろなことを勉強したとおっしゃっていました。酒井所長さんは、温かい感じのコメントをなさる方ですが、やはり、特別支援教育に問題意識を持って関わることで、教育者としての幅が広がるのだなと思った次第です。

また、向台小ですが、算数の授業で同じ授業をベテランの先生と若手の先生が隣のクラスで行っていました。やはりベテランの先生は上手いなと思ったのですが、若手の先生も一生懸命でした。若手はベテランの授業技術を学べるし、ベテランも若手の授業から、ちょっと忘れていたひた向きさのようなものを思い出せば、お互いに良い刺激になるのではないかというふうに感じました。

また、成田小では、1年生の道徳の授業でしたが、先生が子どもたち一人ひとりの意見を板書して、少し違っているときは、「ここだよね。」と、丁寧に書いて説明してあげていました。子どもたち一人ひとりが、授業を通して自分の居場所を見つけられているのではないかなと思いました。

小川委員：5月25日に、高木委員と共に関東甲信越静岡市町村教育委員会の連合会総会及び研修会に出席しました。会場は静岡県の藤枝市でした。今、サッカーのワールドカップが行われていますが、藤枝市は長谷部選手の出身地ということで、大変、盛り上がっている様子でした。また、小中学校にはサッカークラブもあって熱心に行われているとのことでした。研修会の方は、文部科学省からの講師を招いて、学校における働き

方改革について講話がありました。働き過ぎないように、是非、改善してほしいという内容でした。学校で先生方が、子どもたちと向き合う時間をなるべく多く取れる働き方となるよう、考えなければならぬと思いました。講話に続いて、バルセロナオリンピックの競泳で金メダリストとなった岩崎恭子さんの記念講演もありました。14歳で世界の頂点に立った後、次の目標に向かって頑張るといった気持ちが、なかなか起こらなかったり、自分自身と周りの方々との関係において難しいことがあったりしたようで、バルセロナオリンピック後、成績が振るわなかった時期の心境について等、お話をしてくれました。

6月18日、前林小と大須賀小の所長訪問に参加しました。両校とも小規模校で、子どもたちは落ち着いて授業を受けていて、ほのぼのとする場面もたくさんありました。小規模校であることをもっと生かしていければ、もっと素晴らしい学校づくりができると思われまますので、そういう点では、もう少し創意工夫が必要ではないかなと思うところもありました。

6月25日、公津の杜中の管理主事訪問に参加しました。子どもたちは、全般的に大変落ち着いていましたが、特に3年生が、一生懸命、勉強に取り組んでいて、授業に集中できていました。そういったことから、学力面で県の平均を上回っているという話を聞いて、やはり、授業に取り組む姿勢が大事だと思いました。また、小川校長からも、秩序を大切に学校経営を行っていきたいという話がありました。

なお、中庭の植栽についてですが、肥料切れなのか水不足なのか、元気がなかったので少し気になりましたが、管理が大変であるという話をされていました。ですので、これから大栄みらい学園の植栽を造る際には、学校現場の先生方と十分話し合っただけ、水やり等の管理や手入れがしやすいように造っていただきたいと思ひます。

高木委員：6月14日に成田小、18日に前林小と美郷台小、25日に久住小、そして昨日、八生小を訪問しました。

成田小では、資料の中に「成田小学校いじめ防止基本方針」がありまして、子どもたちへのアンケート、行動のめやす、いじめ発見シートなどが記載されていました。成田小としてのいじめ防止基本方針が策定されていることに感心しました。帰宅してから各学校のいじめ基本方針をインターネット上で検索しましたところ、各学校でも、その学校独自のいじめ防止基本方針を策定し、内容を定期的に見直して改訂等しているようでした。

また、前林小ですが、今年の運動会では特別支援学級の児童が応援団長をしたというのを校長先生から伺いまして、感心しました。特別支援学級の授業では、二人ずつでチームをつくって意見の交換をしたり、振り返りのところでは、一人ひとり、自分の意見を述べたりしていました。あと、これは4年生の教室でしたが、エアコンの臭いが少し気になりました。

また、久住小ですが、蜂が出るのでしょうか。蜂の殺虫剤が教室の隅に2本置かれていました。子どもの手に届くところには置かないよう、気を付けていただきたいと思います。

昨日の八生小ですが、学区がかなり広いことから通学距離が長くなりますので、大変だなと感じました。先日、大阪の地震で大きなブロック塀が倒れて、児童が亡くなりました。大変痛ましいことです。成田市の学校施設については、ブロック塀のチェックは行われているのでしょうか。また、通学路についても危険なブロック塀の確認等が行われているのか、教えていただきたいと思います。

片岡委員：私も何校か学校訪問をしました。中学校は、西中、中台中、そして、本日午前中の久住中。小学校は、遠山小、中台小、美郷台小、八生小です。それぞれの学校で特色がありますが、先生方も色々だなと感じながら参観しました。西中ではキャリア教育、久住中では社会貢献ができる子どもの育成に力を入れているとのことでした。

また、小学校の方ですが、小規模校としての悩みを抱えているお話が伺えて、大変勉強になりました。八生小では、来年度、一年生が複式学級となる見込みだそうです。国の基準では、担任の先生は学級で1人の配置になるようですが、現場の先生の大変さ等を考えますと、学年ごとに先生を配置していただければいいなと思いました。

遠山小では、単学級に関する昨年度の反省として、先生方が孤立してしまい、「誰に相談すればよいのかわからない」といった声があったことから、今年度は、週1回、1、2年生の先生方、あるいは、3、4年生の先生方がコミュニケーションをとるため、悩みを相談する時間をつくっていますと話されていました。また、チャイムに関してですが、遠山小はノーチャイムでして、私はノーチャイムの学校を訪問するのは初めてでした。子どもたちはノーチャイムでも時間の管理ができているという話を伺い、そういうものなのだなと感じました。あと、学校林の「駒の森」に咲くカタクリの花が県で表彰されたというお話もされていました。

地域の方々との連携が取れている学校が多く、とてもいいことだなと思いました。

一つ気になりましたのは、中台中のプールですが、これから水を張るにあたって、プール内の塗装が剥げてしまっているの、子どもたちがけがをしないよう、点検をして補修をするところだという話を伺いました。今日の訪問先の久住中は新しい校舎で、設備等が整っていましたので、建設からだいぶ年数の経った学校と対照的だなと思いました。

議長 長：高木委員さんからいくつかご質問等ありましたが、エアコンの清掃に関しては、私は、学校に勤務していたとき、職員室のエアコンのフィルターを外して、エアコンの効きが少しでも良くなるように、また、電気代が少しでもかからないようにと、一生懸命、掃除をしておりました。

では、学校施設のブロック塀のチェックについては学校施設課長から、通学路等については教育指導課長から説明をお願いします。

篠塚学校施設課長：学校施設のブロック塀につきましては、早速、調査を開始しております。

高槻市で通学途中の児童が亡くなった事案のような、高さがあり規模の大きいブロック塀は市内の学校にはありません。ただ、小規模なもので基準に適合していない学校がありますので、それらにつきましては対処してまいります。

高安教育指導課長：通学路の点検につきましては、国県からも通知がきておまして、各学校に対し、通学路における児童生徒の安全確保の徹底について通知を出しております。また、通学路におけるブロック塀のうち、私有地等、学校敷地ではない部分につきましては、教育委員会、学校が管理するものではありませんので、市の担当課を通じて点検を進めていただいております。

教育委員会といたしましては、成田市通学路交通安全プログラムに基づき、市P連等との合同点検の実施や市の関係各課及び関係機関との連携を行うとともに、児童生徒の安全意識を高める安全教育を推進してまいりたいと思います。

あと、蜂の殺虫剤についてですが、教室内に置くことのないよう指導いたします。

議長 長：片岡委員さんからご意見がありました教職員の配置については、学務課長から説明をお願いします。

高梨学務課長：複式学級についてですが、複式学級が1学級であれば、学級数に加えて配置される増置教員を担任にすることで複式を解消できますので、1年から6年まで、複式学級になることなく学級編成が可能となります。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号及び議案第2号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

<これより非公開>

議案第1号 「平成31年度使用教科用図書の選定について」

高梨学務課長：

議案第1号、平成31年度使用教科用図書の選定について、ご説明いたします。成田市教育委員会といたしまして、平成31年度に使用する中学校「特別の教科 道徳」の教科書及び学校教育法附則第9条の規定による一般図書などの選定を行うものでございます。7月6日に開催される第2回教科用図書印旛採択地区協議会に、本市教育委員会を代表して関川教育長と小川教育長職務代理者にご出席いただくにあたりまして、本市教育委員会として選定をどのようにするか、本日、午後、委員の皆様にご調査、協議をしていただきました。

まず、特別支援学級で使用する附則9条図書ですが、資料の3ページと4ページをご覧ください。全130冊のうち、14冊について、調査、協議を行っていただきました。3冊が新規のもので、残りの11冊のうち、10冊については、印旛採択地区協議会で除外されたもの、1冊は、昨年度成田市で除外したものとなっております。

次に、中学校の道徳の教科書についてですが、資料の2ページをご覧ください。調査、協議の中では、選定するにあたって、「生徒たちが自分の生き方や道徳的価値について深く考え議論する教材を扱う教科書か」「1時間の中で授業が終わる仕組みになっているか」など、さまざまな観点で話し合いが行われました。

議長：道徳の教科書については、なかなか難しい協議でありまして、協議した5人がそれぞれ異なる教科書を選ぶという状況でしたので、あまり差はないのかなとも思った次第です。また、特別支援学級で使用する附則9条図書につきましては、昨年度、成田市で選定しなかった図書について、今年度も選定しないということで協議会に提案したいと思っております。

それでは、議案第1号「平成31年度使用教科用図書の選定について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第2号 「成田市社会教育委員の委嘱について」

神崎生涯学習課長：

議案第2号、成田市社会教育委員の委嘱について、ご説明させていただきます。

今回は、任期満了による委員10名全員の改選でございます。内訳といたしましては、再任5名、新任5名となっております。任期満了により退任される方は、7期14年、社会教育委員を務めていただきました橋内忠成様、6期12年を務めていただきました正岡宗之様、6期約11年を務めていただきました藤山勝様、4期8年を務めていただきました今来弓子様、1期2年を務めていただきました平川千秋様となります。

橋内様、正岡様、藤山様、今来様の4名におかれましては、長年にわたり委員を務められましたが、今期をもってご勇退となります。また、平川様におかれましては、久住中学校校長として成田市校長会を代表して委員を務めていただきましたが、4月の人事異動により市外の学校に転任されたことから退任となります。

新任の委員につきましては、成田市社会教育委員条例第2条第1号、学校教育の関係者に基づく委員として、平成29年4月に開学いたしました国際医療福祉大学成田キャンパス医学部教授 石川和信様、成田市私立幼稚園協会からの代表として、成田幼稚園園長 鈴木隆英様、成田市校長会からの代表として、久住中学校校長 松岡薫様の委嘱を提案いたします。

続きまして、同条第2号、社会教育の関係者に基づく委員として、成田市国際交流協会副理事長 大竹博様の委嘱を提案いたします。大竹様は多年にわたり成田市国際交流協会の運営に携わられており、現在は副理事長としてご活躍されております。

続きまして、同条第4号、識見を有する者に基づく委員として、大木香様の委嘱を提案いたします。大木様は平成25年度から28年度まで第18期成田市青少年相談員の副会長を務められ、現在はヨガインストラクターとしてヨガの普及などにご尽力されております。

今回、委嘱いたします10名の皆様には、平成30年7月1日から平成32年6月30日までの2年間、本市の社会教育委員として教育委員会から諮問された案件の協議や、社会教育に関する計画の立案等にご尽力いただくことになります。

以上、簡単ではございますが、ご説明とさせていただきます。ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

議長：ただ今の提案に関して、ご質問等はございますか。

特にないようですので、議案第2号「成田市社会教育委員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 「平成30年度成田市学校支援地域本部事業実施要領の改正について」

高梨学務課長：

本市では、平成27年度より4校で実施を開始し、平成29年度は、市内8校において実施いたしました学校支援地域本部事業についてであります。本年度は、実施校を13校に拡大したことから、要綱及び要領の改正を行ったものです。

本事業は、地域住民等の協力により、授業の補助や部活動支援、学校の環境整備等、学校を支援する体制として文部科学省が平成20年度から実施しているものです。その後、平成27年12月の中央教育審議会答申において、従来の「学校支援地域本部」等の活動を基盤として、地域による学校の「支援」から地域と学校双方向の「連携・協働」へ、また、「個別の活動」から活動の「総合化・ネットワーク化」を目指し、幅広い地域住民の参画により、「地域学校協働

活動」を推進する新たな体制が提言されました。平成29年3月には社会教育法が改正され、地域学校協働活動が法律に位置付けられましたことから、学校支援活動は地域学校協働活動に包括される形の位置付けとなっております。

なお、「協働」には、学校支援活動のほか、地域活動や放課後子ども教室なども含まれます。

まず、報告第1号、平成30年度成田市学校支援地域本部事業実施要領の改正についてですが、現行と改正案の対照表となっております資料の1ページをご覧ください。「3. 実施時期」については、今年度の期間となります。「4. 実施校区」については、昨年度実施校の本城小と川上小の2校を除く6校の継続校に、今年度から実施することとなりました三里塚小、向台小、玉造小、中台小、美郷台小、久住中及び吾妻中の7校を加え、合計13校となります。

これに伴いまして、「5. 実施内容」の(2)に記載のある「各地域本部」についても、先ほどの2校が削除され、新たに7校が追加となります。

なお、施行日は、平成30年4月1日です。以上、報告第1号の説明となります。

《報告第1号に対する質疑》

高木委員：この学校支援地域本部事業は平成27年度から実施していますが、これまでの成果や課題としては、どのようなことがありますか。

高梨学務課長：本事業を継続しています学校につきましては、地域から支援をいただきながら、学校の教育活動の活性化という点で大きな成果があると考えております。課題といたしましては、本年度、継続できなくなりました2校のうちの1校については、地域コーディネーターの方が辞められて、後任の方を選出することができなかったということから、地域コーディネーターの選出や育成が課題となっております。

小川委員：資料の3ページと4ページに地域コーディネーターが行う活動について規定がありますが、具体的な活動の事例としては、どのようなものがありますか。

高梨学務課長：登下校時の見守りや児童への読み聞かせといった活動が、多くの学校において行われております。

報告第2号 「成田市学校支援地域本部事業運営委員会設置要綱の改正について」

高梨学務課長：

それでは、続きまして、報告第2号、成田市学校支援地域本部事業運営委員会設置要綱の改正についてですが、主な改正内容は、第3条の「(2) 学校関係者」が、実施校の拡大に伴い、これまでの8名から13名となりました。

なお、施行日は、平成30年4月1日です。以上、報告第2号の説明となります。

《報告第2号に対する質疑》

小川委員：第3条の運営委員会を組織する委員のうち、「(1) 行政関係者 1名(教育委員会)」は、どなたになりますか。

高梨学務課長：担当課の課長であります、私、学務課長の高梨が委員となっております。

報告第3号 「平成30年度就学援助に係る当初認定件数について」

高梨学務課長：

報告第3号、平成30年度就学援助に係る当初認定件数について、ご報告いたします。お手元の資料、2ページをご覧ください。6月12日現在、要保護児童生徒につきましては、小学生10人、中学生14人で合計24人、準要保護児童生徒につきましては、小学生458人、中学生287人で合計745人を認定しております。

資料の3ページをご覧ください。本市の就学援助認定児童生徒数につきましては、近年ほぼ横ばいで推移しており、平成29年度においては、全児童生徒数に対する要保護及び準要保護

児童生徒の割合は、約7.7パーセントとなっております。

今年度の当初認定者数は、合計745人で、昨年度の同時期の691人と比較すると54人、約7.8パーセントの増加となります。

また、要保護及び準要保護児童生徒数についてですが、平成28年度末現在と平成29年度末現在の認定者数を比較しますと、47人、約6パーセント増加しており、近年、増加傾向にあることから、今後、年度途中の認定を加えると前年より増加すると予想されます。報告第3号の説明は以上となります。

《報告第3号に対する質疑》

小川委員：認定者の中には震災避難者の児童生徒もいるようですが、被災地からの転入者というだけで、いじめを受けているようなことはありませんか。

高梨学務課長：そのようないじめの事例は、担当課においても報告を受けていないということです。

議長：各学校に対しては、そのようなどこのないよう、かなり指導をしておりますので、現実的に、そういった事例はないものと認識しております。

6. 教育長閉会宣言